

2019 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

杉野輝明 (名古屋市大)

この度私は、2019年3月15日から3月19日の5日間、スペインのバルセロナで開催されたEAU 2019に、The JUA/EAU Resident Programmeの一環として参加させていただきました。2018年度のEAUにおいて初めて海外で学会発表する機会をいただきましたが、今回は2回目のEAU参加ということもあり、期待と緊張が入り混じる気持ちでの会場入りとなりました。会場に入ると、規模の大きさや熱気、内容の濃さに圧倒され、改めて参加して良かったなと実感しました。

Resident Programmeでは、期間中の滞在費ならびにresistrationの費用を学会に援助していただき、現地ではJUAとのJoint sessionおよびOpening ceremony, Resident dinnerに参加する機会をいただきました。Joint sessionにおいては、腎癌や前立腺癌の治療戦略について熱い議論がなされており、非常に勉強になりました。また、Opening ceremony, Resident dinnerでは、同じProgrammeに参加されていた長久保病院の志村寛史先生ならびに東北大学の小山淳太郎先生と交流を深めるとともに、海外の先生ともお話する機会があり、大変刺激になりました。

また、学会発表におきましては、基礎研究内容である「 $\beta 3$ stimulant contributes to the prevention of renal crystal formation via differentiation of beige adipocytes ($\beta 3$ 刺激薬はベージュ脂肪細胞の分化を通して腎の結晶形成を抑制する)」と、臨床研究内容である「Ureteroscopic assistance contributes to the safer renal puncture during endoscopic combined intrarenal surgery (ECIRSにおける穿刺の際、尿管鏡のアシストはより安全な穿刺をもたらす)」の2演題を発表しました。誠に光栄なことに、基礎研究内容においてはBest Poster Awardを受賞させていただくことができ、今後の臨床や研究に対するモチベーションが一層高くなりました。

バルセロナは、観光名所として、アントニ・ガウディの作品が多数存在しています。私もサグラダファミリアを初めとし、グエル公園やカサ・ミラ、カサ・パトリヨなどの建築物を見学しました。ガウディの作品には、自然界の造形やその鮮やかな色彩が多用されるとともに独特なモチーフが配置されており、心を惹きつけられました。また、バルセロナは画家のパブロ・ピカソが10代を過ごした地としても知られています。今回私は、バルセロナのゴシック地区にあるピカソ美術館を訪れることができました。普段見ることができない有名な画家の作品を生で鑑賞することができ、非常に感動しました。食事は、バルなどで提供される小皿料理(タパス)やパエリ

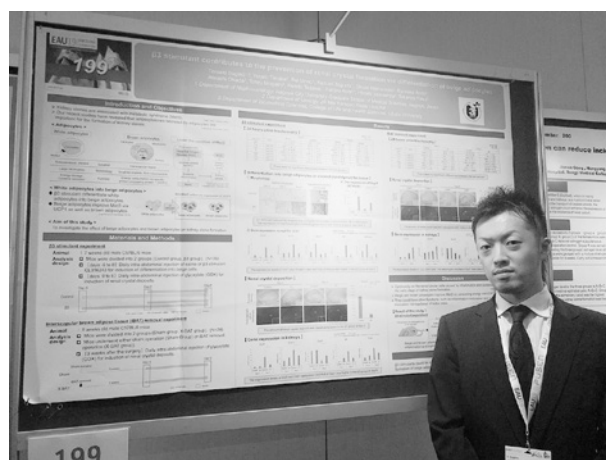


写真1. ポスター前にて



写真2. サグラダファミリアの前で

アが有名です。どれも比較的味の濃いものが多かったですが、どこで食べてもおいしく、お酒が進む料理でした。学会はもちろん、観光の面においてもスペインの文化に触れることができ、非常にいい経験ができたと感じております。この経験を日々の臨床や研究に活かして頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった日本泌尿器科学会 富田善彦国際委員長、欧州泌尿器科学会の皆様、推薦いただいた名古屋市立大学大学院医学研究院泌尿器科学 安井孝周教授ならびに関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。